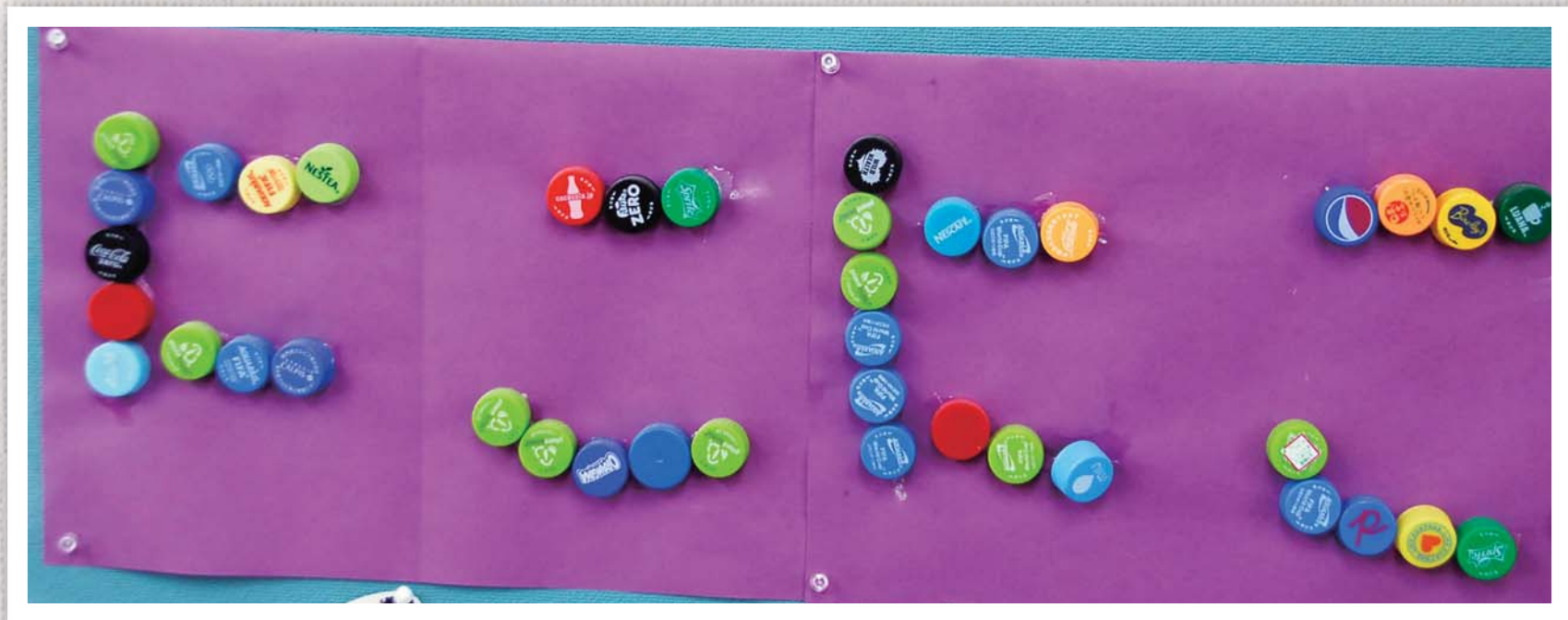


# なおちゃんの夢は保育士さん ～園児の笑顔がくれたもの～





**視力が弱い19歳のなおちゃん。  
ちょっと人見知りだけど、子どもが大好き。  
保育士を目指して大学で勉強しています。**

**障がいがあったのは、幼いころ。  
「あの子はなんという名前なの」。  
保育園でお母さんから  
友だちの名前をたずねられたなおちゃん。  
でも答えられません。  
なおちゃんは友だちの顔がはつきりと  
見えていなかったのです。  
お父さんやお母さんは  
大きなショックを受けました。**





**小学生になり、手術を受けました。  
訓練をがんばり、視力が少し回復。  
でも暗いところやまぶしいところは苦手です。  
慣れない場所では  
段差に気づかず、つまずくことも。  
外に出るのは準備や勇気がいりました。**

**「保育士になれたらいいな」**

**将来の姿を**

**ぼんやりと思い描くようになったのは、  
中学3年の時の職業体験がきっかけでした。**

**幼稚園で毎日子どもたちとふれ合い、  
子どもの姿が可愛いすぎて、**

**「自分は子どもが大好きなんだな」と  
実感したから。**





でも、何度も夢をあきらめようとしてしました。

目の病気のことです不安があったから。

「子どもたちの危険を  
見落としてしまうかもしれない」

そんななおちゃんに  
勇気を与えてくれたのは先生でした。

「何もしないであきらめるな。  
難しいと思うこともやってみよう」と  
背中を押してくれました。

お母さんも  
「なおちゃんが決めたことなら応援するよ」と  
見守ってくれています。

**保育園の先生になるため、  
特別支援学校卒業後、大学に入学しました。  
そこには、なおちゃん以外に  
障がいのある人はいません。  
通学や友だちとのつきあい方などに  
戸惑う日々。  
しかし、なおちゃんは  
自らの夢の実現に向けてがんばっています。**





**障がいがある中で、  
「どう子どもたちに関わっていけるのか」  
との不安は常につきまっています。  
でも実習で保育園に行くたびに、  
声を掛けて寄ってきてくれる  
子どもたちの笑顔に逆に励まされるのです。**





## 「視覚障がい」について

なんらかの原因により視機能に障がいがあることにより、全く見えない場合と見えづらい場合とがあります。後者の場合は ▽細部が分からない ▽見える範囲が狭い ▽光がまぶしい ▽特定の色が分かりにくい—などの症状が特徴です。

### ★こんな配慮がうれしい！

- ◇ 白杖を使用している人が困っていたら突然体にふれず、前方から簡単な自己紹介をしてから声をかける
- ◇ 「こちら」「あちら」などの指示語は使わず、具体的に説明する
- ◇ その人の「目」になる気持ちで接する

## あとがき

なおちゃんは不自由な目でしっかり前を見据えている。たぶん慣れない取材に戸惑いはあったはずだが、発せられた一言、一言は意味がはっきりしていて、「保育士になる」夢の実現に向けて強い意思を感じた。彼女は自然に今の心境に至ったわけではない。私が聞くことができた彼女の悩みやエピソードはほんのわず

か。周りの支えや本人の努力で、さまざまな困難を乗り越えてきた。保育士になる夢は何度も諦め、その都度、思い直して、よくやくいま、実現させるところまで来ている。(あ)